



【デザイナー】Alan R.Moon 【メーカー】Days of Wonder

【プレイ人数】2人～4人 【プレイ時間】30分

【抄訳】海長とオビ湾

コンポーネント

- ・ カード 148枚
 - 電車カード 96枚(各色10枚と機関車16枚)
 - ビックシティボーナスカード 6枚
 - 目的地カード 46枚
- ・ ルールブック 1冊



ゲームの目的

ゲームの目的はどのプレイヤーよりも高い得点を獲得することです。得点は自分の目的地カードを達成する事で得ることができます。またビックシティによるボーナスを受け取ることもあるでしょう。

ただし気をつけてください！達成できなかった目的地カードはマイナスの得点になってしまいますよ！

ゲームの準備

各プレイヤーに1枚ずつ機関車カードを配ります。

残りの機関車カードと電車カードをよく混ぜ、各プレイヤーに7枚ずつ配ります。さらに残ったカードを山札として全員の手の届く所に置きます。

山札から5枚を、表替えて山札の横に並べます。

6枚のボーナスカードを全てのプレイヤーから見える位置に並べます。

目的地カードをよく混ぜて各プレイヤーに6枚ずつ配ります。

残った目的地カードはその山札として、表返した電車カードの横に置きます。

その後、全てのプレイヤーは自分の目的地カードを確認して、その中からキープするカードを決めます。目的地カードは少なくとも1枚はキープしなくてはなりません。もちろんこの段階でもてる目的地カードは最大で6枚です。

キープされなかったカードは目的地カードの山札に戻します。目的地カードの山札を改めてよく混ぜ、元の位置に戻します。



ゲームの進め方

2～3人で遊ぶ場合は電車カードの山札を一山分だけ使用します。電車カードの山札が尽きたとき、ゲームは最終ターンを迎えます。ゲームが終了したら得点計算です。

4人で遊ぶ場合は電車カードの山札を二山分使用します。最初の山札が尽きたとき、達成した目的地カードの最初の得点計算を行います。その後、電車カードの捨て札の山をよく混ぜ、新しい電車カードの山札を作ります。2回目の電車カードの山札が尽きたら、ゲームは終了し、得点計算を行います。

ゲーム概要

ゲーム中、プレイヤーは新しい目的地カードや電車カードを引くことができます。また手札の電車カードを自分の前(レイルヤードと呼びます)に公開することもできます。また自分のレイルヤードに置かれたカードを自分の前の空いたスペースに伏せて置くことができます。これをトラックスタックと呼びます。

トラックスタックに置かれたカードは、同じ色で同じ量のルートが書かれている目的地カードに使うことができます。こうすることにより目的地カードは達成されたことになり、得点を得る事ができます。また場合によってはビックシティのボーナスを得る事もあるでしょう。



手番の進め方

最も若い人が最初のプレイヤーです。その後は時計回りに1ターンずつ行っていきます。

ターンは2つのステップで進行します。

ステップ1

トレインカードをレイルヤードから取り出し、トラックスタックに移動させる。

もし自分のレイルヤードに電車カードが置いてある場合、その全ての列(色)から必ず1枚ずつカードを取り、トラックスタックに伏せておかなければなりません。(列の一番上、つまり手前に置かれているカードを取ります。)

一度トラックスタックに置かれたカード郡は電車カードの山札が尽きるまでそのままです。このカード郡の内容を途中で再確認することはできません(本人であっても)。電車カードの山札が無くなったらこれらのカードを使用して得点計算をすることになります。

メモ 初心者や若いプレイヤーがいる場合は、トラックスタックのカードを公開するようにしても良いかもしれません。

最初のターン、もしくは自分の前にカードが無い状態の場合、このステップ1は飛ばしてください。

ステップ2

次に、下の3つのアクションの中から一つを実行しなくてはなりません。(一つのみしかできません。)

- A. 電車カードを引く
- B. 電車カードを自分のレイルヤードに置く
- C. 目的地カードを引く

アクションの詳細は以下の通りです。

A 電車カードを引く

(電車カードの引き方はチケット・トゥ・ライド・ボードゲームと同様です。ただし、本ゲームでは機関車カードが3枚出たときの全カード入れ替えは起こりません。)

電車カードは、電車カードの山札、もしくはオープンに並んでいる5枚の電車カードの中から2枚引く事ができます。オープンに並んでいる電車カードから引いた場合、空いたスペースには即座に山札からカードが補充されます。これは、1枚目をオープンに並んでいる電車カードから引いた瞬間に処理します。

また、オープンに並んでいる電車カードから機関車カードを引く場合は、2枚引いたものとして数えられ、即座にターンが終了します。もし電車カードの山札から機関車カードを引いた場合は1枚分と数えます。ゲーム中に手札の枚数について制限はありません。

B 電車カードを自分のレールヤードに置く

手札からカードを選んで、自分のレールヤードに表にして置きます。その時、

『2枚以上の同じ色のカード』もしくは『3枚のそれぞれ異なる色のカード』である必要があります。

『2枚以上の同じ色のカード』を置く場合、それらのカードはレールヤード上の同じ列に配置しなくてはなりません。

また、列のカードは少しずつずらして配置し、下に何枚カードが配置されているかわかるようにします。

機関車カードはどの色としても扱えるワイルドカードですが、配置するときは列の一番上に置かなくてはなりません。後々、機関車カードは目的地カードを達成するために使用されますが、その際、このレールヤードでどの色として扱われていたかは関係ありません。

『3枚のそれぞれ異なる色のカード』を置く場合、

何かの色の代わりとして機関車カードを使う事はできません。

またいずれの置き方であっても、既に自分のレールヤード配置されている電車カードと同じ色のカードをレールヤードに追加して置くことはできません。(既にある同じ色のカードがレールヤードからなくなった場合、通常どおり配置できるようになります。)

他プレイヤーのレールヤードによる影響と“電車強奪”

自分のもの以外のレールヤードに既に電車カードが置かれている場合、同じ色のカードを配置するには他プレイヤーを上回る枚数を置けなければなりません。もし他プレイヤーの枚数を上回る枚数を配置できた場合、対象となるほかプレイヤーは該当する色のカード(レールヤードにあるもの)を全て捨て札にしなくてはなりません。

これを“電車強奪”と呼びます。

C 目的地カードを引く

目的地カードの山札から4枚の目的地カードを引く事ができます。その後、好きな枚数だけ手元に残すことができます。(1枚も残さないという選択も許されます。)残さなれなかったカードは目的地カードの一番したに戻してください。



アクションを一つ行ったら、プレイヤーのターンは終了し、電車カードの山札が尽きない限り時計回りにターンを行っていきます。

電車カードの山札が無くなったら...

電車カードの山札から最後の1枚が引かれたら、全てのプレイヤーがもう1回ずつターンを行います(最後のカードを引いたプレイヤーももう一度)。戦略的に、場に残っているカードが1枚になったら、いらなくてもあえてカードを引きに行くというもありえるでしょう。そうすると他のプレイヤーはステップ2の間、目的地カードを引くか、手札をレールヤードに配置するかしか出来なくなります。

以上、全てのターンが終わったら、各プレイヤーは自分のトラックスタックに置かれている電車カードを目的地カードの達成のために使用します。

目的地カードには、その目的地を達成するために必要な電車カードの色と枚数が示されています。

目的地カードを達成するためには、自分のトラックスタックに置かれたカードのセットで、目的地カードに書かれた条件(色と数)が合致する電車カードの組み合わせを作れなければなりません。電車カードはそれぞれ一つの目的地カードにのみ対応できます。機関車カードは何色としてでも使用できます。

メモ 色盲のプレイヤーがいる場合は、カードに書かれたマークを目印にしてください。

全ての目的地カードについて達成しているかどうか確認します。達成された目的地カードはその価値の分だけ得点になります。これらの目的地カードは伏せて自分の手元においておきます。2人～3人で遊んでいる場合、これでゲームは終了します。(ゲームの終了と得点計算に進みます。)

4人プレイの場合

4人で遊んでいる場合、ゲームはまだ続きます。

1回目の得点計算で達成できなかった目的地カードは公開しないで手札に戻します。また1回目の得点計算で使われなかった手札の電車カードも同様に残ります。

他の電車カード、即ち、トラックスタックにありながら得点計算に使われなかったカード、レールヤードにあるカードは全て捨て札となります。捨て札を全て集めてよく混ぜ、新しい山札を作ります。

全てのプレイヤーは新しい電車カードの山札から4枚ずつ受取り、自分の手札に加えます。

その後、1回目の最後のプレイヤーの次のプレイヤーから、2回目のラウンドを開始し、2回目の電車カードの山札がなくなるまで通常どおりゲームを進めます。

2回目の山札が終了したら、1回目同様の得点計算を行い、達成した目的地カードの価値を得点として得る事ができます。(1回目に得た得点に加算されます。)

ゲームの終了と得点計算

ゲームが終了した時点で、達成されていない目的地カードを持っているプレイヤーは、そのカードの価値の分だけ得点からマイナスしなくてはなりません。また、ビックシティ毎に(シアトル、ロス、シカゴ、ダラス、ニューヨーク、マイアミ)達成した目的地カードを最も多く持つプレイヤーはビックシティボーナスカードを受け取り、そこに記載された得点を獲得する事ができます。最も多く持つプレイヤーが2人以上いた場合は、その誰もが記載された得点を獲得することができます。

(目的地カードにビックシティが2つ書かれている場合もあります。この場合、それぞれのビックシティについて1枚分と数える事ができます。)

最終的に最も得点が高かったプレイヤーが勝利します。

得点と同じプレイヤーがいる場合は、より達成した目的地カードの多い方が勝利します。

これは非常に稀なケースですが、それでも同点の場合はボーナスカードの多い方が勝利します。



【文中】

ステップ1でレールヤードからトラックスタックにカードを移す際、レールヤードの列の中からどのカードを取るのか、または選べるのかという点が原典ルールに記載されておりませんでした。

BoardGameGeekでもこの点について議論が交わされておりましたが、2008年6月時点では本和訳に記載の通り、列の中の一番上にあるカードを取らなければならないとします。(でない、機関車カードを一番上に置かなくてはならない理由が無いからです。)

Copyright (c) Days of Wonder, Inc

本ルールは Days of Wonder 社による正式な公開許可を得ていますが、
訳文としての公式な承認を得ているものではありません。